



イエスのカリタス友の会だより

36号 2020.7.1 発行

イエスのカリタス友の会の会員の皆様 また、友の会を応援してくださる皆様、お元気でいらっしゃいますか？

友の会の活動を心にとめて祈り、寛大なお心遣いによって支えてくださっていますことを、心より感謝いたします。

さて、“新型コロナウイルス”という言葉は初めて耳にしてから、久しくなりますが、今ではこの言葉を聞かない日はありません。皆様も、自分が感染しないよう、そして他の人にも感染させないように気をつけてお過ごしのことと思います。友の会事務局も活動を休止しておりましたが、2020年度の最初の会合を、ようやく6月8日に開くことができました。私たちの支援先の南米(特にブラジル)や南スーダンなどは感染症拡大などで、生活困窮者の状況は日に日に厳しくなっていますので、より効果的に支援できるよう今後も頑張りたいと思います。

これからは新型コロナウイルスと共生していかなければならないと言われていますが、そのために“新しい生活様式”が求められています。その中でも3密を避け、社会的距離を保つことが基本とされています。

教皇フランシスコは、内的な姿勢について、次のメッセージを発信しています。

「新型コロナウイルスのパンデミックに対して、全世界の祈りと思いやり、優しさで対抗していきましょう。一致を保ちましょう。独りぼっちで試練に立ち向かっている人々が、わたしたちがともにいることを感じられるようにしましょう。わたしたちは、医師や医療従事者、看護師、ボランティアの皆さんに寄り添います。」

さらに教皇は、4月8日、謁見のメッセージを次の言葉で始めました。「世界中を苦しめているこのパンデミックにより、人々の間に不安が広がっていますが、そうした中でわたしたちは、さまざまなことを自分自身に問いかけます。その中には神についての問いかけもあります。神はわたしたちの痛みを前にして、何をしておられるのだろうか。何をやってもうまくいかないときに、神はどこにおられるのだろうか。どうして神はすぐに問題を解決してくださらないのだろうか。」

このように問わなければならないほど、厳しい状況におられる方も多いと思いますが、教皇は次のように続けます。

「神は、愛のうちに全能な方である…。この世界の力は過ぎ去るものですが、愛は留まります。愛しか、わたしたちのいのちを守ることはできません。愛はわたしたちの弱さを受け入れ、それらを変えることができるからです。…わたしたちの罪をゆるすのも、死をいのちへの道とするのも、わたしたちの恐れを信頼に、不安を希望に変えるのも、神の愛に他なりません」。神はどんな時でも私たちとともにいてくださり、私たちをその愛で包み、励ましてくださるのです。

また、教皇は今回の感染症のパンデミックは人類が地球を粗末に扱ったことに自然が反応した一例だと述べ、“新し

い生活様式”について、環境保全の視点から呼びかけて、「わたしたちがともに暮らす家である地球と、もっとも弱い立場にある兄弟姉妹を大切にするために力を合わせるよう」、2020年5月24日から2021年5月24日までを、『ラウダート・シ特別年』としました(※ 『ラウダート・シ』とは環境保全についての教皇の文書です)。感染症によるロックダウンで、大気汚染の改善や二酸化炭素排出量の減少により、思いがけず澄んだ空、澄んだ海を取り戻した地球、コロナ終息後、再び前の姿に戻してよいのかという声が聞かれる中で、『ラウダート・シ特別年』を、地球全体のことを考えて過ごすことは時宜にかなっていると思います。

「新しい生活様式」について『ラウダート・シ』の中では「エコロジカルな回心」と言われています。キリスト教で“回心”という時、外面的なことより、内的な悔い改めをさします。これまでの生活を内側から振り返り、神の愛を受けた者として身近な人、困難のうちにいる他の人や皆の家である地球を大切にしているかと自分に問いながら、もっと神に祈り、もっと思いやり、やさしさを持つこと、それを実行に移すことができるように神に力を願いたいと思います。

教皇が勧める次の祈りを、毎日唱え、“新しい生活様式”の支えとして生きていきたいものです。



祈り

いつくしみ深い神、天地万物の造り主よ、わたしたちの思いを解き放ち、心に触れてください。あなたの賜物である被造物の一員でいられますように。

この過酷な日々の中で苦しんでいる人、とくにもっとも貧しい人と弱い立場にある人に寄り添ってください。

感染症の世界的流行に立ち向かう中で、創造的な連帯を示すことができるよう支えてください。

共通善を探し求めるために、変化を受け入れる勇気をお与えください。皆が互いに結ばれ、支え合っていることを今ほど感じられるときはありません。

地球と貧しい人々の叫びに耳を傾け、応えられるようにしてください。

今のこの苦しみが、

兄弟愛にあふれ、持続可能な世界を築くための産みの苦しみとなりますように。

扶助者聖マリアの優しいまなざしのもと、わたしたちの主キリストによって祈ります。アーメン。

イエスのカリタス友の会の皆様、友の会を応援してくださる皆様お一人おひとりに神様の豊かな祝福をお祈りしています。

コーディネーター シスター峯 妙子



南スーダンより



南スーダン ジュバ共同体の報告をさせていただきます。

全世界に広がっているコロナウイルス感染症は例外なく南スーダンでも広まり始めています。しかし、普段からいくつかの病気があるためでしょうか、今、この報告を書いている5月末現在、検査キットが配布され検査を行ったところ、全国で感染者は1000人未満で、重症化するということは少なく、あまり症状のない保菌者が大半のようです。

しかし、政府は他の国同様、「密」を避けるための対策で、教会はミサの停止、教育機関は休校、外出自粛令を出し、そのため仕事がなく食糧の確保もままならず、ただでさえ内戦から尾を引いている食糧難がひどくなっています。その上、異常気象の影響か、バッタの大量発生によって作物が不作で、特に主食のトウモロコシの粉の値段が高騰しています。

また、コロナ感染症は、現地の人はそれほど重症化しなくても、外国籍の人、つまり国連職員、NGO、宣教師たちにとっては脅威です。ですから、食糧の支援を続けていた団体は皆、自国に戻ってしまいました。教会も活動ができなくなり、その上、国境閉鎖で交通機関も大半が遮断されたため物の輸入も止まり、最悪な事態になっています。

私たちの使徒職である子どもセンターは閉鎖していますが、診療所は最低限の患者だけは受け入れていました。そうしているうちに雨季に入ると、毎年普通に発生するマラリア患者が増え始め、政府は縮小していたすべての診療所に、通常の患者の受け入れを要求しています。しかし、南スーダンのほとんどの病院、診療所は外国人が行っていて、コロナ感染症の薬のない、設備もない、医療者の防護服もない状態です。国内にはマスクが不足しているため、人々に注意を促しても布で口を覆うくらいで、せめて飛沫感染しないように心がけていただくしかありませんが、気温が高く、その習慣がない人々には受け入れられず手に負えません。このような状況下で医療関係者は本当に、自分が感染すると

わかっていて治療をしなければならないジレンマの中で、献身しています。

コロナ感染症とマラリアとの関係も油断なりません。マラリアは普段から、かかると高熱が出て、これも風邪に似た症状のためにコロナ感染症との区別がつかないのが苦しいところのようです。油断していると医療関係者がコロナ感染症にかかるリスクが高くなり、脆弱な医療体制はすぐにでも崩壊することは間違いありません。患者より先に医師、看護師が、罹患してしまうことが予想され、そうなるとマラリアの治療も難しくなるでしょう。

私たちのカリタスドンボスコ診療所も、万全の対策はできなくても少なくともスタッフはマスク着用、患者にも布で鼻口を覆ってもらい、コロナ感染症の疑いのある人は、ジュバ国立病院（ここだけはコロナ対策が行われている）へ行っていただくよう対応しています。

コロナ対策の三密を避けるためのSocial Distance確保のために、もともと狭かった診察室を少し広くする工事を行いました。実際はそれほど十分なスペースがなく、待合部分の外気が入るテラス部分で治療を行っています。高熱で来る人がマラリアなのか、コロナによる熱なのか区別するのは難しいですが、赤外放射温度計を使用しつつ、診断を行っています。

教会では聖ヴィンセンシオ・ソサエティーの活動として、食糧支援を毎月1度行っており、支援の対象者を食糧確保が難しい老人、病者と限定していますが、先ほど書いたように主食とするトウモロコシの粉の価格高騰と、ほとんどが隣国のウガンダ、ケニアからの輸入に頼っているため市場で買い求めることもできません。とにかくこのコロナ感染症が終息しなければ、配給自体できない状況が迫ってきています。

2016年の2回目の内戦の後に私たちは診療所、子どもセンターの周りに200本のグワヴァの木を、隣のサレジオ会は100本のマンゴーの木を植えましたが、果実がつくまでにはあと2年ほど待たなければなりません。今は雨季が始まりましたので、とにかく皆、家の周りの

耕せる部分、教会も耕せる所は村人たちに家庭単位で敷地を分け、トウモロコシ、イモ、野菜を植えて自給自足に励んでいます。

長い歴史で、南スーダンという土地は疫病、争いなどが当たり前という中で生き抜いてきた人々ですから、今回もこの危機を乗り越えていけるとお互い励ましあ

っています。皆様からの支援金は、医療、食糧支援にいつも使わせていただいています。

南スーダンの人たちと共に、皆様の心温まるご支援に感謝しつつ、日本における一日も早いコロナ終息をお祈りいたします。祈りを込めて感謝のうちに。

南スーダン共和国 ジュバ共同体一同



ボリビアより



オガールファティマの職員給与支援願い

イエスのカリタス友の会のスタッフ並びに会員の皆様、2019年は、ボリビアにとって波乱の年で、10月のボリビア大統領選挙後、与党-社会主義党側の不正選挙が発覚、野党と民衆の怒りが爆発して、市民リーダーたちの掛け声で、市民が団結し、全国市民ストが始まりました。ボリビア全土を巻き込んで、ついには、初の原住民大統領エボ・モラーレス氏が辞任、2020年5月3日に大統領再選挙が行われることになったものの、政局は安定していません。21日間の全国市民スト中、都市機能がマヒし、オガールファティマでは、公的支援を得られないため、食料品・生活必需品の確保の心配や、職員通勤のための高額なオートバイタクシー代や

食事代など、色々な出費が重なりました。友の会からの給与支援と食費支援に助けられ、本当に感謝しています。中国、アジアでの新型コロナウイルスの蔓延も心配ですが、サンタクルスでは、デング熱が流行し、市も対策を講じたにも関わらず、10名の死者が出ました。幸い、オガールの子供たちは、大丈夫ですが、職員とその家族達がデング熱に罹り、大変です。

今は、約40名の子供たちと賑やかに暮らしています。2020年度も、この施設のよりよい運営のため、2名分の職員の給与支援をお願い申し上げます。景気が低迷しておりますので、何卒、寛大なご理解とご配慮よろしくようお願い申し上げます。

申請合計金額 13,020ドル

この申請について、資金全額を支援することが可能であったため、申請は受け入れられ、ボリビアへ全額お渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。

オガールファティマ乳幼児院の2020年度の不足分の食費、及び1年間分のおやつ代の支援願い

イエスのカリタス友の会のスタッフ並びに会員の皆様、2019年には、オガールファティマ乳幼児院の県庁の福祉課からの食費補助金の未払いをご理解いただき、不足分の食費のご支援を頂き、助かりました。昨年の紛争以来、政局が安定していない上に、2020年5月3日大統領再選挙後、政権が交代すると公的機関の人事から法規までも一変するので、社会福祉の予算がどうなるか？補助金

はどうなるのか？不安が募ります。2019年度の市役所からの食費の補助金もいまだに支給されていません。さらに、おやつ代を支援してくださっていた支援グループ「ビスケット」からの支援が終了し、おやつ代の心配も増えました。35~40名の子供たちは、午前午後、1日2回、クッキー、ビスケット、飴、ヨーグルト、ジュースなどのおやつを頂いていますが、そのうちの1回分のおよつ支

援をお願いさせていただきます。2020 年度も、不足分の食費、及び 1 年間分のおやつ代をご支援くださいますようお願いいたします。ご検討の上、

何卒寛大なご理解とご配慮のほどよろしくお願ひ申し上げます。

申請合計金額 11,110 ドル

この申請について、資金全額を支援することが可能であったため、申請は受け入れられ、ボリビアへ全額お渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。

親愛なるイエスのカリタスと友の会の皆様へ

皆様は、お元気でお過ごしでしょうか？ いつも、ボリビアとオガールファティマ乳幼児施設へのご理解をいただき、寛大で、温かいご支援に本当に感謝しています。今年も、食費と給料支援を頂き、ありがとうございます。

2020 年、新年度、新学期が始まり、希望と喜びにあふれる季節であるはずですが、世界中が新型コロナウイルスの脅威に揺れ、目に見えないウイルスに翻弄され、多くの人々が苦しんでいます。そして、地球環境、人々の日常生活に大きな変化が起こっています。ここボリビアでも、2019 年 10 月-11 月の国内紛争の痛手も癒えないうちに、大統領が、3 月 22 日衛生緊急事態宣言を公布し、全国で外出禁止令が施行され、新型コロナウイルス感染症への攻防戦が始まりました。ボリビアは、保険医療体制が脆弱であり、政治の不安定、経済の悪化などで国民の不安も高まっています。このような状況下で、いつも犠牲になるのは、貧しい人々、闘病中の人々、高齢者、難民、そして、施設に収容されている保護の必要な弱い人々です。オガールファティマ乳幼児施設には、現在、0~4 歳までの子供たち 40 名が暮らしており、4 名のシスターズと職員で、その幼い命を守っています。県の福祉事務所は、各施設を訪問して必要な支援をすと言っていますが、何もありません。市役所の福祉事務所から時々、食料物資が届けられるだけで、月の補助金の支払いも滞納しています。

一番の課題は、子供たちの世話をする職員の通勤と感染防止です。市発行の通行許可書で職員送

迎・物資調達を行っていますが、感染の危険があるため、72 時間体制勤務として外部との接触を最小限にし、出勤時には、職員が自身の消毒作業をしています。一時期は、道路に空、陸軍の兵士たちも検問に出ていましたが、6 月 1 日より、衛生緊急事態対策の責任が地方自治体に移行してから、ほとんどコントロールもなくなり、感染拡大しているにもかかわらず、地方自治体も実情を把握できず、対策もできていないのが現実で、各自が自己防衛するしかないといった状態です。



社会活動が停止・縮小されているので、オガールファティマでも行事は縮小か中止にし、手洗い、マスク装着など衛生管理に努めていますが、子供のお世話にはスキンシップが欠かせないので、ハラハラ心配しながら、見守っています。神様のご保護とシスターズと職員たちの愛の奉仕のおかげで、子供たちと一緒に健やかに暮らせることを感謝しています。しかし、5 月末に、職員の家族が感染しているのがわかり、事態はさらに複雑化し、混乱の中にあります。差し当たって、院内の消毒、予防薬やビタミン剤、栄養補給剤の摂取を開始しました。子供たちにもマスクの装着を試みましたが、一日だけしかできませんでした。

世界全体も経済危機ですが、ここボリビアでも中小企業、サービス業、自営業でも、倒産、リストラ、減俸など、経済の陰りが浮き彫りになってきています。政府からの個人・家庭や企業への支援

は微々たるものなので、生活の為、行商や仕事に出る人が多くなり、事態は、さらに悪化しています。こちらの乳幼児施設が修道会や恩人・協力者からの支援で、何とか運営できることに本当に感謝していますが、この状態がいつまで続くのかと不安も募ります。毎日、父なる神様に祈りながら、免疫力を高めて健康を保持し、皆で協力して、この急場を乗り越えていきたいと願っています。

終わりに、本修道会のカリタス学園の様子をご紹介します。2月3日に新学期を迎えたばかりでしたが、3月12日から全国で休校になり、今も全国で休校状態です。緊急事態下にあって、政府からの教育方針や支援がないので、教育の現場は、混乱していますが、手探りで、教育クラウドプラットフォームといういつでもどこでも、パソコン、

タブレット、スマホで利用できる多様な教材やツールなどの教育の導入やオンライン授業で、様々な困難を抱えながらも、子供たちの教育に取り組んでいます。

友の会の皆様、どうぞ、ボリビアの人々、特に、子供たちのため、お祈りくださいますようお願いいたします。そして、これからもご支援のほどよろしくお願いたします。

皆様とご家族、お一人お一人に、神様のご保護と祝福がありますように。皆様もご自愛くださいませ。

2020年6月1日

オガールファティマ乳幼児施設

施設長 シスターベネディクタ立石



遊びに夢中な2歳児たち



滑り台の寄付に大喜び



成長を願って赤ちゃん体操



Zoomによる授業



ペルーより

アントニオ・カヴォリ学園の生徒のための奨学金

イエスのカリタス友の会のスタッフ並びに会員の皆様、常日頃から宣教地への温かいご支援を承り、心から感謝しています。どうもありがとうございます。

この度、アントニオ・カヴォリ学園の数家族の生徒のために本年度奨学金の援助を友の会の皆様をお願い致します。ドン・ボスコの予防教育をもとに運営されている学校ですが、経済的問題で転校せざる得ない生徒や複数の子供たちを当校で勉

強させたいと強く望んで家計を遣り繰りしようとする家族があり、子供たちの将来のために良い環境で勉学を続ける機会が出来れば奨学金制度を取り入れたいと思いました。転職、失業など家族が抱えている問題、課題は複数で深刻でもありますが、これがきっかけになり子供たちが明るい未来を作り上げる人に成長するように願っています。何卒寛大なご理解と、ご配慮のほどよろしくお願い申し上げます。



申請金額 9,000 ドル

この申請について、資金全額を支援することが可能であったため、申請は受け入れられ、ペルーへ全額お渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。

カリタス友の会の皆様

3月、4月、5月とパンデミック COVID-19 に脅かされて過ごした四旬節、聖週間、復活節でしたが、友の会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。いつも大変お世話になっております。

日本においても、新型コロナウイルスが猛威を振るっていますが、世界の中では少ない感染率を維持することができていますね。ペルーは南アメリカの中で、ブラジルに次いで多くの感染者が出ています。特に貧しい地域と卸売市場で感染が広がっています。3月中旬に発令された外出禁止令は、感染者の増加によって、6月30日まで延長されることになりました。

私たちの学校も3月12日から家庭学習が始まり、4月からオンラインでの授業を始めました。初めてのことで最初は戸惑っていましたが、今やっと、職員も生徒たちも軌道に乗り始め、1日4時間程度、“Zoom”や“プラットフォーム”（教師と生徒とがやり取りをする教育教材システム）等を通して学習に励んでいます。今年は家庭学習、オンラ

イン授業が年末まで継続されます。

現在の大きな心配事は、父兄の大部分が職を失っていることです。自営業を営んでいる方々も、店を開くことができず、収入源を断たれ、どうやって食べていけばいいのかと、不安いっぱいの生活を送っています。

このような厳しい状況にあって、友の会の皆様から温かいご援助を頂き、心より感謝いたしております。このご寄付は貧しい家庭の子供たちの月謝にあてさせていただきたいと思っております。本当にありがとうございました。

パンデミックの拡大に心を痛めているパパ様と心をひとつにし、COVID-19の早期終息を切に祈っています。皆様もご自愛くださいますように。心からの感謝をこめて！

2020年5月聖母月の終わりに

アントニオ・カヴォリ学園
Sr. マリア・ミカエラ山田



5月24日扶助者聖母の祝日、オンラインを通して生徒たちと聖母行列子供たちはそれぞれが意向と共同祈願を準備して、世界の平和のため、パンデミックの早期終息を願い、心を一つにして祈りました。



ブラジルより

サン・マテウスカリタス学園奨学金援助



友の会の皆様の小さき者へ寄り添うお心と、寛大なご理解のもとに贈られた奨学資金は、援助申請者の家庭訪問を通して、それぞれの状況を検討した結果、2019年度は34人の学生を支援することが出来ましたことを、心から感謝いたしております。

カリタス学園・サンマテウス校は、2020年度に

向け、援助申請者の家庭訪問と親権者との面接を終えました。2020年度の奨学金申請者は33名です。友の会の皆様にとっても、難しい大きな額面と思いながらも、奨学金申請学生たちの教育を続けたいとの懇願に押され、友の会へのお願いとさせて頂きました。どうぞ、ご検討くださり、ご支援いただけますようよろしくお願い申し上げます。

申請金額 35.815、18ドル

この申請について、申請は受け入れられ、可能な限りの支援をブラジルへお渡しすることが出来ましたことを報告申し上げます。

山縣久美子様、友の会々員の皆様

皆様お変わりなくお元気でご活躍のことと思います。この度は、私どもの奨学金申請にご寛大なご理解を頂きましたことに深く感謝いたします。

新学期が始まり、学校にも慣れ、先生、生徒同志の交流も深まりを増し賑わいがでて来たところに

予期もしなかった新型コロナウイルスによる学校閉校の通達が政府より発表され、すでに一ヶ月以上が経ちました。

すぐにオンラインや課題提出等による非対面型の授業が始められましたが、疲れが徐々に見られるようになりましたので今は、冬休みの繰り上げ休みにしているところです。5月中旬から又、授業

再開へ向けて、先生方はその準備のために全力を注いで来ましたが、コロナウイルスはますます蔓延し、何時、授業再開されるのか全く予想も尽きませんが、学校としては、7月の授業再開をメドにして、さらに準備を進めています。

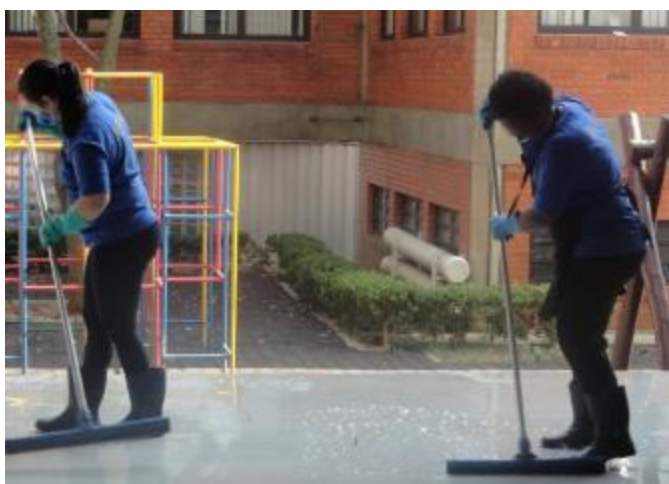
日々、難しい問題がおしよせて来ていて先の見えないもどかしさと戦っています。父兄からの相談や退学者の増加と心配はつきませんが、一日も早い平常な日々と授業再開の日を願いつつ、マリア様のみ元で祈りをささげる毎日です。皆様から

のご支援のお知らせは私たちに大きな慰めと力、勇気を与えてくれました。本当に感謝しております。皆様方一人一人に神様の豊かな祝福を祈りつつ、簡単ではありますが、お礼の一筆とさせていただきます。

2020年5月8日

ブラジル準管区 カリタス学園サンマテウス

校長 シスターベルナデッチ 中川



早目の冬休み（本当は7月）を終え、授業再開に向け掃除に励む職員



休校になり、管理職の職員は、学校の運営のバランスを保つために最善を尽くしている

活動報告

バザーの報告

カトリック下井草教会バザー（12/14） 井萩聖母幼稚園クリスマスバザー（12/17～19）



イエスのカリタス友の会バザーへの様々な形でのご協力に、心より感謝いたします。12月はクリスマスバザー。井萩聖母幼稚園の終業の日に合わせて、3日連続で行うことができました。園長先生の声かけて、手作りケーキが好評でした。

下井草教会でのバザーは天候に恵まれ、大盛況でした。皆様からは、何か購入して寄付を

してくださろうとのお心遣いを頂き、12月の寒さの中で、心が温かくなるようなひと時でした。ありがとうございました。

今は新型コロナウイルス感染防止で各教会の活動が制限されているため、おそらく10月頃まで、バザーの開催は難しいと思っています。また、皆様とお会いできる日を楽しみにしています。



イエスのカリタス友の会のために、寄付、CDによる献金、バザーのための物品寄付、そして使用済み切手、書き損じハガキ、外国コインなどをお寄せくださった皆様に心より感謝いたします。

使用済み切手整理

使用済み切手は3月に以下のように業者に送ることができました。

- | | | |
|-------------|--------|----------|
| 1. 国内切手 | 19 kg | 15,200 円 |
| 2. 外国切手 | 2.5 kg | 5,000 円 |
| 3. 外国紙幣・コイン | | 770 円 |

※2019年度は7月10月分と合わせて91 kg 76,534 円でした。ご協力ありがとうございました。



イエスのカリタス修道女会 スモールクワイア

寄せていただいたメッセージ



ありがとうございます。
ちからづけられました。心いやさ
れます。

たまたま web で「愛のわ
ざ」という曲を検索して
いる途中イエスのカリタ
ス修道女会のサイトにた
どり着き再生ボタンを押
すと、歌声とメロディー
が心にスッと入り優しい
気持ちになりました。求
めていた感覚があり非常
に感動いたしました。

+皆様 新型コロナ
ウイルス感染に
負けないで下さい

おつかれさまです！私も
2020年からはばたけそう
です！何に向かってなの
かは全くわかりませんけ
れど、自分を大切に、
人を大切に、自然やあ
らゆるものと優しい気持
ちで共存していきたいと
思っています！フランシ
スコパパ様がおっしゃっ
ていたように！

いつもきれいな聖歌を
ありがとうございます。
それで、イエスの
カリタス修道女会の皆
様による音源はないか
と思い、インターネット
をさまよったところ、
ここにたどりつき
ました。

同時にお送りいただいたイ
エスのカリタス友の会の冊
子を拝見し、シスターの皆
様が日本のみならず、世
界中で活躍されていること
を知りました。

特にボリビアの写真で、小
学校にあがるかあがらない
かぐらいの子どもたちがに
こやかに写っているの
見て、心に響きました。本
当に頭が下がります。

これまでに出了された 5 枚の CD



わたしをお使いください



心からの感謝を



かけがえのないのち



祝福の歌



光の道へ

お問い合わせ

CD をご希望の方は、お電話、メール、FAX、
振込用紙のいずれかの方法でご注文くださ
い。

その際、次の必要事項をお知らせください。

- 1) お名前
- 2) ご住所
- 3) お電話番号
- 4) CD の種類
- 5) CD の希望枚数

お問い合わせ先

TEL : 03-3396-2171 FAX : 03-3396-2150

email : tomonokai@m-caritas.jp

イエスのカリタス友の会事務局

CD による献金は友の会の活動に使われます。

イエスのカリタス友の会 会計報告
2019年4月1日～2020年3月31日

《収入の部》

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
寄付金収入	9,417,761	
一般からの寄付金	8,464,709	
CDによる寄付金	953,052	
荷物送料	0	
その他の収入	1,654,700	
バザーによる収入	1,258,545	
雑収入	396,155	
当期収入合計	11,072,461	
前期 繰越金	1,240,393	
収入の部合計	12,312,854	

《支出の部》

(単位：円)

科 目	金 額	備 考
宣教活動支援費	9,514,982	
イエスのカリタス会 日本管区	1,038,000	カリタスドンボスコスクール 図書室の机と椅子
イエスのカリタス会 ブラジル準管区	2,500,003	カリタス学園サンマテウス校奨学金援助
イエスのカリタス会 ボリビア	2,668,320	オガール職員給与(2名分) 1,396,590 生活必需品 1,181,730 指定献金 90,000
イエスのカリタス会 ペルー	1,066,870	A・カヴォリ学園奨学金 966,870 指定献金 100,000
イエスのカリタス会 南スーダン	2,241,789	食糧・薬の支援 1,000,065 指定献金 1,241,724
その他	0	
運営費支出	326,303	
荷物送料	0	
通信費	283,603	友の会便りの印刷・送料 2回分 切手、レターパック代
消耗品費	32,700	友の会だより封筒代、 バザーの材料代
手数料	0	
その他	10,000	バザーの場所代
当期支出合計	9,841,285	
次期 繰越金	2,471,569	
収入の部合計	12,312,854	

心からの感謝と祈りを込めて

イエスのカリタス友の会発足時から約20年間、奥様と共にご奉仕くださり、特にバザーでは、新鮮な野菜の仕入れ、荷物の搬入、販売を担当して下さっていた岩田晋様が2月に帰天されました。

夏のバザーの暑い中、手作りケーキをかごに入れて、移動販売までして下さるなど、友の会のために力を注いで下さっていたお姿が偲ばれます。

心からの感謝のうちに永遠の安息をお祈りいたします。



2019年春のバザーでの岩田様

お知らせ

入会者

杉山 尚子 天野 雅子 (敬称略)

毎月10日には、イエスのカリタス友の会の会員のためのごミサ(お祈り)が、イエスのカリタス修道女会管区本部修道院聖堂において捧げられています。どうぞ心を合わせてお祈りください。

イエスのカリタス友の会入会案内

イエスのカリタス友の会は、イエスのカリタス修道女会が行う宣教活動を、財政的に支援する事を目的とするボランティアグループです。

会員の活動

任意の時期に、任意の金額を友の会に寄付します。(入会費・年会費はありません)
可能であれば、バザー、使用済み切手の収集・整理、その他の活動に参加、協力します。

入会について

入会ご希望の方は、下記の事項について事務局にお知らせください。

住所・氏名(ふりがな)・電話番号・FAX・メールのいずれかで結構です。

入会希望を受けて、「イエスのカリタス友の会の規約」をお送りいたします。

個人情報について

入会時に受け付けた個人情報は、友の会事務局にて慎重に管理されます。同会会員に対しても公開は

控えさせていただいておりますので、ご了承ください。尚、ご寄付・バザーの物品提供・使用済み切手の収集等にご協力いただいた際には、次回発行される「イエスのカリタス友の会だより」にお名前のみ掲載させていただいております。匿名希望の方は、その旨をお知らせください。

会員の資格

5年以上連絡がない場合、会員の資格は消失いたしますのでご了承ください。

友の会会員のために

毎月10日にミサを捧げ、ご支援くださる方への感謝と報告を兼ねて、年2回「イエスのカリタス友の会だより」をお送りしています。イエスのカリタス友の会の趣旨をご理解くださり、賛同して下さる方は下記までご連絡ください。

〒167-0021 東京都杉並区井草4-20-5

イエスのカリタス友の会事務局

TEL 03-3396-2171 FAX 03-3396-2150

Email tomonokai@m-caritas

イエスのカリタス友の会事務局のメンバー



事務局からの声

今年、新型コロナウイルスが中国で発生し、あっという間に全世界に感染が拡大しました。

皆様は如何お過ごしでございましたか。

友の会事務局では、年に数回のバザーを開催致し、その収益金はイエスのカリタス修道女会の宣教地への支援とさせて頂いております。

この毎回のバザーで長年に渡り、陰の絶大なる力で支えて下さいました岩田様(友の会事務局メンバー岩田さんの御主人様)がルルドの無原罪の聖母の翌々日に天に召されました。

コロナウィルス感染がまだ緩やかな頃でしたので、岩田様を惜しむ大勢の方々がお別れに参列されました。

岩田様をすっかり頼りにしておりました私達の心には、ぽっかりと穴が開いてしまいました。

でも、これからはきっと神様のお側で、私達の活動を見護り、支えて下さることと思います。(Y.M)

「コロナという耳慣れない病気が騒がれ初め 日本でも外出自粛の要請が出され既に2ヶ月以上たちました。どちらのお宅も断捨離に励み粗大ゴミが沢山出たと聞いています。わが家も着なくなった洋服を洗い直して知人に送ったり、引き出しの中のいらぬ物を捨てたり簡素な生活がとても快適に思えてきました。

そして良かった事。一週間に一度も一緒に夕食をしたことのなかった家族が、ほぼ毎日全員で食卓を囲む事ができました。そんな事を言っている場合ではなく経済的に困窮している方、病床にいらして苦しんでいらっしゃる方は沢山いらっしゃいます。そんな中にも今私達に出来ることは沢山ある気がします。

小さな思いやり 若い方への支援 一生懸命考えて実行に移したいものです。」(K.Y)

緑濃く花々の美しい聖母月も今年は教会で喜びあうこともない寂しい日々。筋力の衰えを覚えて久しい、朝早く凜とした空気を感じながら一步一步ゆっくりと歩いてイエズス会ロヨラハウス、無原罪の聖母修道院、東京カトリック神学院あたりまで行くと心が穏やかになりホッとする瞬間、坂を下ると石神井川のせせらぎが昨年からのいろいろな思いを癒してくれる。

世界中の人々が苦しんでいる新型コロナウイルスの終息は全くみえない。長い長い暗いトンネルを抜け出した時、全世界が平和と喜びで満たされますように、祈ります。(T.I)

新型コロナウイルスの感染拡大からようやく、長いトンネルの先に光が見えだした5月18日、バチカンのサン・ピエトロ大聖堂内の地下礼拝堂で、聖ヨハネパウロ2世の生誕100年を祝うミサが捧げられるのをビデオ中継で見ながら、今はケアハウスに住む両親の顔を思い浮かべました。今年100歳になる父は 先日の電話に「よわったことになったなあ」と、この状況を心配し娘を、孫を、安じてくれました。2月から近くに住む妹も直接会うことができませんが、8月の誕生日には揃ってお祝いできることを願いながら、新しい生活スタイルを求められているこれからのを、より神さまに繋がり人とつながり祈りを深めていきたいと思ひます。(K.K)

新型コロナウイルスが報道され、私たちの生活は一変してしまいました。

会社や学校は休みになり、外出も制限され、今までに経験したことのない生活が始まりました。日本のみならず世界中の特に貧困層の人びとが苦しい生活を強いられている映像には心が痛みます。一刻も早く平常に戻りますように祈らずにはられません。

これから新型コロナウイルスと共に生きる新しい生活様式が求められている事を、私たち一人ひとりが心して生きていかなければと思ひます。(H.Y)

新型コロナウイルス感染症の影響は様々な形で出ています。休暇で宣教地から帰ってこられていたシスターも宣教地に戻ることができません。「飛行機が飛ぶようになったらすぐ帰ります。」の言葉に心打たれました。4月から「イエスのカリタス友の会」のお手伝いをさせて頂くことになりました。よろしくお願ひします。

(M.I)

クリスマス号の友の会便りをお届けした後、新型コロナウイルス感染症拡大の影響と緊急事態宣言で、切手整理もバザーのお手伝いもなくなりました。私の住んでいます東京には1400万人が狭い地域で生活をしておりますので、3密を避けることはとても難しいです。全ての活動が止まってしまったようですが、今年も庭でブラックベリーがピンクの花を咲かせて、ブルーベリーは実をつけ始めました。私もこの困難から得た経験をこれからの生活で実を結ぶことができたらと願っています。(Y.F)

バザーのお知らせや報告、スモールクワイアによるコンサートのお知らせ、活動報告などが、イエスのカリタス修道女会のホームページでもご覧になれます。海外や日本で働くシスターたちの宣教活動、CDのお申し込み方法なども載せてありますので、ぜひご利用ください。

<http://www.m-caritas.jp>

寄付金受入れ口座

加入者名 イエスのカリタス友の会

郵便振替口座 00160-2-564970

発行 イエスのカリタス友の会

〒167-0021 東京都杉並区井草 4-20-5

TEL : 03-3396-2171 FAX : 03-3396-2150

e-mail : tomonokai@m-caritas.jp

代表 山縣久美子 事務局長 片山久美子

